

2/28~3/13

春先は火災の多発期

春の全国火災予防運動

二月、三月は空気が非常に乾燥し、強い風が吹くことが多く、加えて暖房器具などの火気使用などもあつて、一年のうちでも火災の多い時期です。火災による犠牲者も多く、五十二年は、この二カ月間で年間死者の約三割を占めています。今年も、二月二十八日から三月十三日まで、「春の全国火災予防運動」が行われます。

「移動する火元」摂氏七〇〇度

たばこが火災原因のトップ

出火原因で最も多いのは、たばこの不始末で、昭和三十五年以来連続十八年間、件数・損害額ともトップの座を占めています。五十二年中のたばこによる火災は、全国で九千六十九件発生し、損害額は約百二十一億円と前年の五十一年に比べて十四億円も増えています。

さて、愛煙家は全国で約三千万



百万人。

つまり、国民の三人に一人が、一日当たり男性約二十四本、女性十六本——合計すると、一日に全国で約八億二千五百万本のたばこが吸われている計算になります。

喫煙は、朝起きてから夜寝るまで、しかも時と場所を選びません。当然のことながら、たばこという「火元」は喫煙者とともに移動し、生活のあらゆる場で一歩間違えば出火の原因になる危険性を秘めています。

たばこは、火源としては小さいが、燃焼温度は七〇〇度〜八〇〇

度です。

私たちの身の回りには、この温度以下で着火する可燃物がたくさんあります。

たばこを吸う方は、いま一度正しい喫煙管理の実行を心がけてください。

「留守中の火災」

留守中の火災

留守の間に火事になり、出火原因を調べてみると、座ぶとんに落ちていたたばこの火が原因だった、などというケースがしばしばあります。

「ふとんにたばこの火が落ちて出火するまでの時間」に比べて、最も多いのが「一時間以上〜二時間未満」で、全体の約三割。

次いで、「二時間以上三時間未満」(二十三パーセント)、「三十分以上一時間未満」(十七パーセント)などとなっています。

たばこの火の場合、出火までの時間がかかり長いのが特徴です。

ですから、たばこの火の不始末の場合、気がつかないでいる限り、「留守中の火災」も十分あり得るのです。

投げ捨て 落下 消し忘れ

たばこの「三大失火原因」

たばこによる火災で多いのは、投げ捨てによるもので、六割(五千四百六件)を占めています。

これは、そのほとんどが喫煙者のマナーの悪さが原因といえるでしょう。

捨てた吸いながら、老朽化した床板に落ちて火事になったり、クルマの中からポイと投げ捨てたのが紙や芝草、踏み板などに燃え移ったり……。また、たばこによる林野火災の千二百七十二件は、消し忘れなども含めて、大部分が喫煙者の不注意によるものです。

投げ捨てに次いで多いのが、灰皿などに置いていたたばこが落ちたもので、千二百四十九件。

こたつにあたりながらたばこを吸い、火がふとんに落ちたのに気がつかず、火事になった。また、床の中でたばこをすい、そのまま眠ってしまったため、たばこがふとんに落ち、火災になったなど。

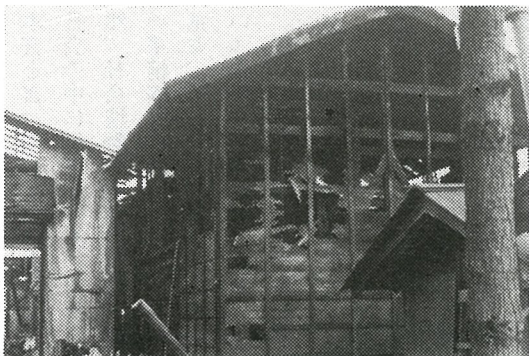
たばこによる火災で、三番目に多いのが、消し忘れて、八百六十三件(約一割)。

くわえたばこで物置きに入り、段ボール箱の上に置き忘れた。

あるいは、灰皿の上に置き忘れたたばこが、近くにあった新聞紙に着火し、火事になった。

これら、投げ捨て、落下、消し忘れを合すると七千五百十八件となり、たばこによる火災全体の約八十三パーセントにもなります。

マナーの悪さと不注意——たばこによる火災が減らないのは喫煙者の「自己管理」の不徹底にあるといえます。



「ちよつと」した油断が